

夢見ヶ崎動物公園再整備計画
(案)



目次

1. はじめに	1	8. 施設配置計画	16
2. 現況の整理	3	8-1. 緑と人の出会いゾーン	17
2-1. 夢見ヶ崎動物公園の現状	4	8-2. 人と人の出会いゾーン	19
2-2. 利用実態	5	8-3. 生きものと人の出会いゾーン	23
2-3. 連携協働の取組	6	9. 概算工事費用と段階整備概要	24
3. 夢見ヶ崎動物公園の課題	7	10. 事業手法	25
4. 再整備の方向性	8	11. 運営手法	26
5. 目指すべき将来像	9	12. 整備効果	27
6. 再整備の基本的な考え方	10	13. 事業スケジュール	
6-1. 再整備の必要性と基本的な考え方	11		
6-2. 「いのちを感じる」とは	12		
6-3. 「いのちを感じる」環境づくり	13		
6-4. 「いのちを感じる」プログラム	14		
7. いのちを感じるゾーニングと主な施設	15		
7-1. 全体ゾーニング			
7-2. 動線			
7-3. 植栽の考え方			

1. はじめに

1

背景と目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「夢見」という。）は樹林に囲まれた標高35mの加瀬山に位置します。**広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園**です。

平成30年3月に策定された「**夢見ヶ崎動物公園基本計画**」では、公園の特色を活かしながら、幅広い世代・分野の人々がつながり、生きものの理解を通じてのちの大切さや生物多様性と恩恵を学び、地域に愛され、賑わいをもたらず持続可能な夢見ヶ崎動物公園の実現を目指して、**将来像や基本コンセプトなどを定めています。**

近年、新型コロナウイルス感染症による影響や脱炭素社会実現に向けた取組、オープンスペースの多様な活用ニーズの高まりなど、様々な社会変容が見られたことから、**令和4年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」を定めて再整備の内容を見直し、これをもとに市民の意見聴取、民間事業者との対話を重ね、令和6年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画画骨子」を策定しました。**

本計画は、これを踏襲しながら、動物公園としての役割を改めて見直し、地域の拠点としての新たな可能性についても考慮し、動物展示施設および公園施設の配置、より具体的な整備内容、事業推進や管理運営の手法などについて示しています。

整備は直近5年間の視点に加え、中長期的な視点も踏まえて行います。

整備開始 ～5年間の視点	飼育環境や魅力を向上させる整備 ・サル舎 ・小動物及び家畜舎 ・バックヤード（動物病院・調理施設） ・インコ舎 ・各種設備 など
中・長期的 視点	動物飼育状況に応じた整備 ・新しい動物の導入検討 ・飼育を終了する種の将来的な動物舎の活用方法の検討 ・効果的・効率的な管理運営を見据えた機能拡張

概況

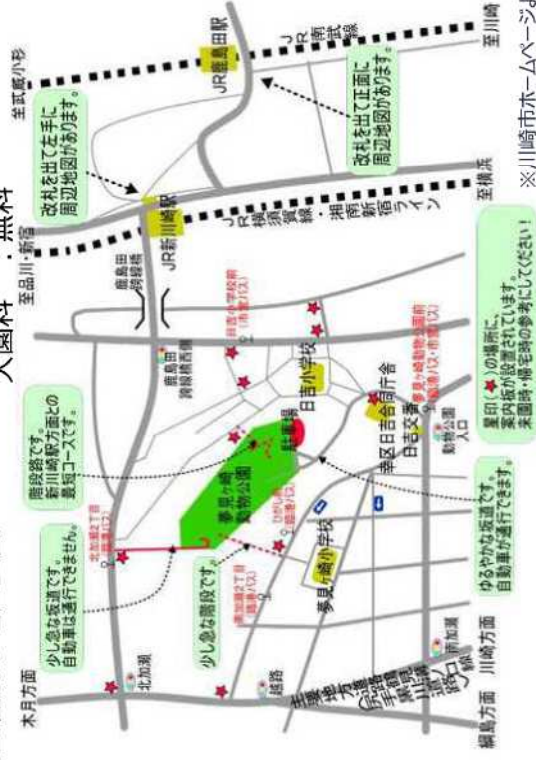
昭和25年に開園され、昭和47年に動物の飼育・展示を開始し、昭和49年4月に公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）に加盟し動物園としての第一歩を踏み出しました。標高35mの丘陵地（加瀬山）に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のようになっています。**市内で唯一の動物公園として、また、古墳など歴史資源を有し、春のお花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。**



遠足利用により賑わう広場空間

【概要】
所在地：幸区南加瀬1-2-1
公園面積：6.6ha
公園種別：地区公園

開園日：昭和25年4月1日
展示開始：昭和47年11月22日
展示動物：51種272点（令和7年10月時点）
入園料：無料



※川崎市ホームページより

1. はじめに

2

対象区域

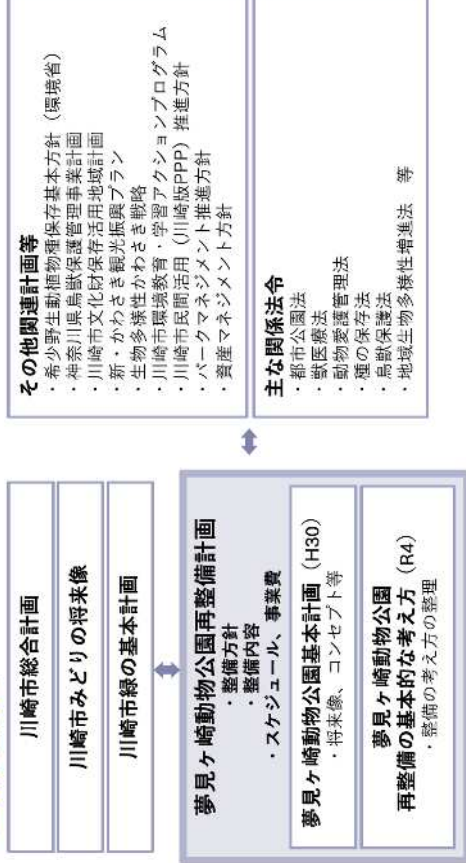
本計画は、民有地などを除く、**夢見ヶ崎動物公園全体を対象区域**とします。



上位関連計画

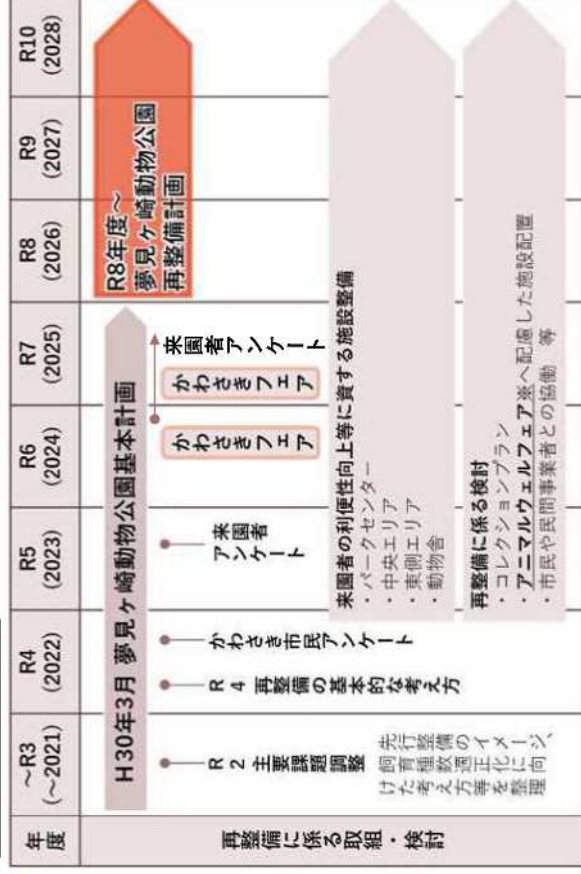
本計画は**夢見ヶ崎動物公園基本計画**をはじめとする**関連計画との整合を図りながら策定**するものとします。

■上位関連計画



検討の経緯など

平成30年度に「夢見ヶ崎動物公園基本計画」を策定した後、コロナ禍やアニマルウェルフェア[※]への関心の高まりなど社会変容に合わせた計画の見直しを行い、令和4年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」をまとめ、「動物福祉とふれあいなどに関わる検討」としてコレクションプラン作成などに着手、**令和6年度に本計画のベースとなる「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」**をとりまとめました。



※アニマルウェルフェア：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のことをいう。日本動物園水族館協会（以下、JAZAという。）のアニマルウェルフェア規程では、会員および園館職員は動物の飼育管理に当たり、栄養、環境、健康、行動、精神状態の5つの領域に関して科学的根拠に基づき定期的にアニマルウェルフェアを評価し、定められたアニマルウェルフェア基準に基づいた動物の飼育管理及び施設運営を行わなければならないとしている。

計画期間

再整備計画の対象期間は、**計画策定から概ね10年**としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

2. 現況の整理

3

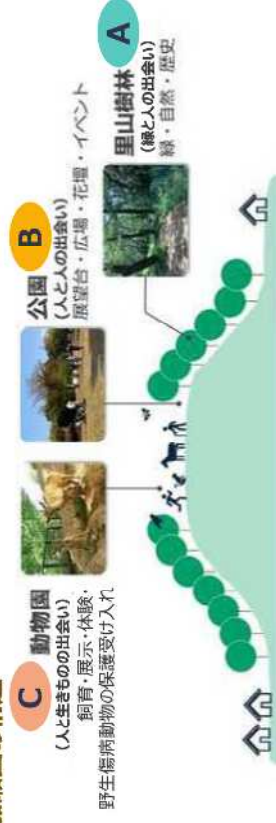
2-1 夢見ヶ崎動物公園の現状

立地特性

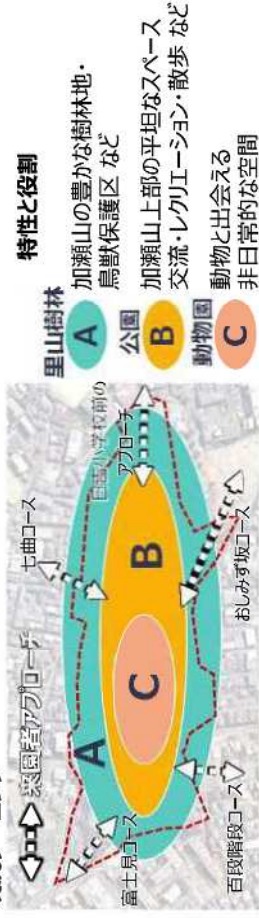
標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、**里山樹林・公園・動物園の3つのエリアで構成され、多様な特性を有しています。**

自然的特性	・標高35mの丘陵地 ・外周斜面は里山樹林 (まとまった緑) ・市内唯一の動物公園 ・鳥獣保護区に指定 ・年間を通じて花や草木、昆虫、野鳥など四季折々の自然を体験
社会的特性	・富士見デッキなどからまちを一望できる(天気が良ければ富士山が見える) ・幸区市民健康の森に指定 ・古墳、国宝「秋草文章」の出土、太田道灌、戦時中の土取り工事、戦没者慰霊塔など歴史的資源が豊富 ・敷地内の社寺などの民有地と共存

■加瀬山の構造



現況ゾーニング



現況施設

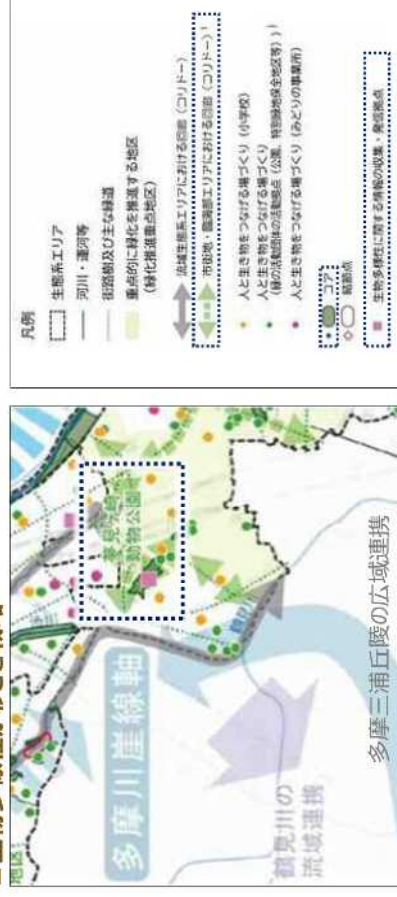
現在園内には、次のような**公園施設・動物展示施設が配置**されています。



生物多様性戦略の中での位置付け

「生物多様性かわさき戦略」では、市街地・臨海部エリアにおける**回廊(コリドー)**における**拠点(コア)**であり、**生物多様性に関する情報の収集・発信拠点**としての役割も担っています。

■生物多様性かわさき戦略



2. 現況の整理

4

2-2 利用実態

来園者数



利用者のニーズ等

令和6年度に市内で行ったオープンハウス型説明会や、令和7年度から園内で実施しているアンケートでは、以下のような利用者のニーズ・意見が得られました。

オープンハウス型説明会 (令和6(2024)年度/参加者=353名)

対象：会場に立ち寄ってくださった方 (令和6(2024)年10月～11月)

夢見のパークセンター及び全国都市緑化かわさきフェアのコア会場(3会場)にて、**夢見全体や再整備の取組などについて広く意見を収集**しました。

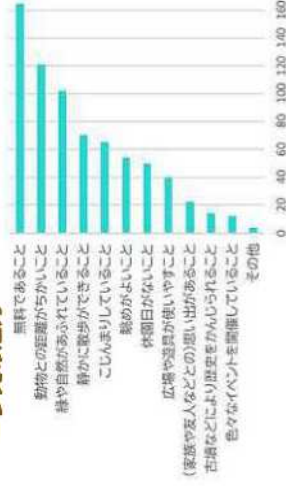
得られた主な意見		計画での対応
動物飼育に関する方針があるのか疑問に思う	動物飼育に関する方針があるのか疑問に思う	コレクションプランの分類の考え方を明確に計画に表記
動物のためになるのなら、お金を取ってもいいと思う	動物のためになるのなら、お金を取ってもいいと思う	歳入確保に向けた運営手法について計画に表記
以前行ったときは駐車場がいっぱいで帰ることになった	以前行ったときは駐車場がいっぱいで帰ることになった	駐車場の効率的・効果的な運用について、引き続き関連事業者と対話を行いながら検討
遊べる場所や遊具が充実しているように思う	遊べる場所や遊具が充実しているように思う	ゾーニングにおいて、遊びのエリアを計画に位置づけるよう検討

入園料・収支の状況

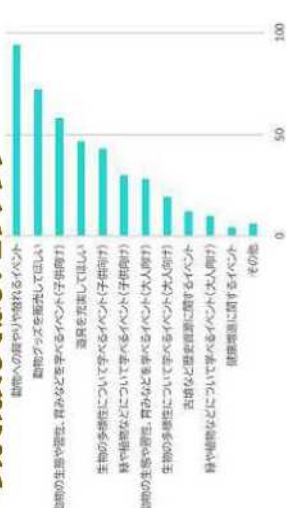
園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、**動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯**があります。
過去5年間(令和2(2020)年度～令和6(2024)年度)の平均収入額は、一時使用料などにより約16万4千円となっています。
支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

来園者アンケート (令和7(2025)年5月～11月/回答数=188) ※以下4項目は複数回答

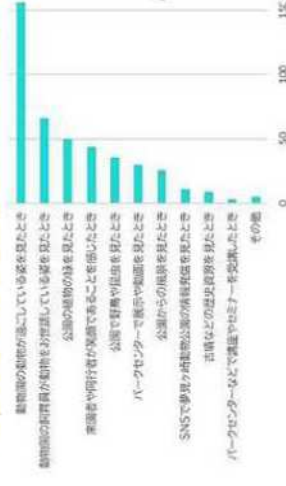
■ 夢見の魅力



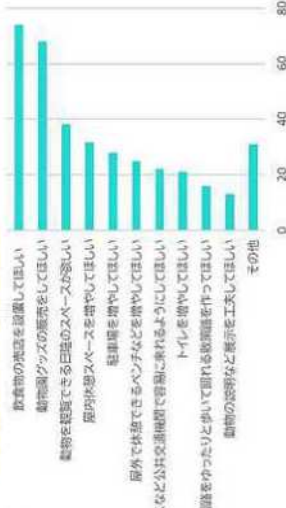
■ 夢見で充実してほしいコンテンツ



■ 夢見で"いのちを感じる"シーン・場所



■ 設備についてのご要望



2. 現況の整理

5

2-3 連携協働の取組

これまで、サポーターやボランティアの方々、教育機関など多様な主体と連携した取組を行っており、活動のフィールドとして利用しています。

多様な主体との連携協働

① ゆめみらい交流会

様々なスキルを持った各種団体の強みを活かし、パークセンターでワークショップや研修会を実施



ゆめみらい交流会の様子

② 夢見ヶ崎動物公園 サポーター

動物園まつりなどのイベントスタッフに加え、夢見のイメージアップにつながるような広報活動への協力や継続的な寄付への協力



サポーターと職員による手作り看板

③ 加瀬山の会

園内の植栽管理、花壇活動などを実施



富士通とのコラボによるアジサイの植樹



季節を伝える演出



小学校、保育園とのコラボによる花壇の花植え



日本文化の伝承

④ 野生鳥獣リハビリテーション

保護鳥獣の給餌・育雛・リハビリ業務などを行う。スキル向上や意見交換を目的とした勉強会や研修会を実施。



保護動物への給餌の様子

⑤ クラウドファンディング

令和4年に実施し約400人から約600万円の支援



医療機器の購入

地域との親和性の向上

① 幸区役所との連携

市政だよりやHP・広報などの協力や区役所での実施する事業への参加や連携、区役所が保有する地域資源とのコラボレーション



市政だより幸区版への掲載

② 日吉出張所との連携

ゆめみZOOテラスの充実や連携施設としてのつながりを表現、イベントの共催などにぎわいの創出協力



ゆめみZooテラスの様子

地域との連携

人の集まる施設での広報

鹿島田陸線橋や鹿島田駅、地域の商業施設など能動的に情報が伝わるエリアで広報



鹿島田陸線橋での広報

市内外の教育機関・高齢者施設などの連携

① 保育園・幼稚園との連携

遠足としての利用、いのちを学ぶ授業としての出前授業などを実施



遠足でにぎわう様子

② 小学校との連携

小学校の学びの場として、遠足前にzoomや出前授業を実施



授業の資料

③ 高校・専門学校・大学などの連携

高校のインターシップ受け入れ、専門学校や大学の飼育実習受け入れ、大学の研究室と協働により実施する飼育動物の環境エンリッチメントなどの調査・研究



東京農業大学との共同研究
猛禽類の飛行・翼の機能解明に関する研究

④ 高齢者施設との連携

高齢者施設でのオンライン動物園ガイドや動物紹介動画の貸し出し



授業の資料

3. 夢見ヶ崎動物公園の課題

6

開園から70年以上が経過し、公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動などへの対応が必要となっています。

① 社会変容による市民ニーズの変化から見える課題

(市民意見・民間事業者意見の調査)

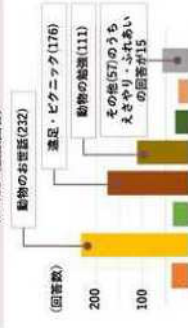
近年では新型コロナウイルス感染症による影響や、オープンスペースの多様な活用ニーズの高まり、さらにはアニマルウェルフェアに対する意識の高まりなど様々な社会変容が見られました。夢見に對する課題やニーズを把握するため、市民や民間事業者からの意見を収集しました。

来園者アンケート (令和5 (2023) 年度/回答数 = 619)

対象：来園者 (令和5 (2023) 年11月)

- ・10歳未満の子どもを連れた子育て世代の来園者が多い
- ・約8割が2時間以内の滞在時間 ⇒ “気軽さ”が魅力
- ・園内の自然環境・散歩のしやすさのほか、動物公園全体の満足度が高い
- ・トイレについて“良くない”が約4割
- ・動物園のメジャーな種(他、ウサギなどの人と距離の近い動物、タヌキなどの身近な野生動物)が人気で、動物に関するプログラムへの関心が高い

夢見ヶ崎動物公園でしてみたいこと・していること
n=418 (複数回答)



来園者の同伴者
n=612



トイレの満足度
n=465



園内の自然環境
n=422



かわさき市民アンケート

(令和4 (2022) 年度/有効回答数=1,556)

対象：市内在住の満18歳以上の個人
(郵送・R4年11月)

- ・コロナ禍では近隣の動物園よりも夢見に訪れた人が多かった ⇒ “身近さ”が魅力
- ・動物の飼育に関心があり、動物の健康・施設の向上を望んでいる
- ・賑やかさよりは落ち着いた雰囲気求められ

民間事業者との対話・意見収集

(平成30 (2018) 年度～継続的に実施)

- ・Park-PFIの導入は難しい (立地や採算面から)
- ・不安定な社会情勢による民間事業者の体力不足
- ・公益的な役割と収益機能の折り合いが課題
- ・駐車場の設置管理許可での参入検討は可能
- ・飼育や公園施設管理等における指定管理の即時参入は困難、段階的に参入を検討したい
- ・近年人件費や光熱費などが上がっているため、運営予算が厳しい

② 施設の老朽化や不足による課題

多くの施設で老朽化や、多様なニーズへ対応した整備が必要となっています。

- ・園内のバリアフリー化不足 (樹木の生長による機能低下)
- ・動物展示の魅力低下、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分
- ・駐輪場や駐車場の検討不足 など



根上がりによる園路の不陸



樹木による眺望の妨げ



閉店している売店



動物舎の老朽化

③ サービス面の課題

動物を介した体験プログラム、加瀬山の自然や歴史を体験・体感できるプログラムなど来園者へのサービス面において、**夢見の特長を活かし、多様な主体と協働した取り組みを充実させる**必要があります。

- ・動物園の4つの役割「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」のうち「教育・環境教育」、「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足
- ・地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足
- ・加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

④ 持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

夢見の魅力を維持しながら持続的な管理運営をしていくために、次のような課題へ対応する必要があります。

① 動物の飼育方針・飼育環境改善

- ・動物園を継続し、種の保存や調査・研究に貢献するための飼育動物種の継続計画 (コレクションプラン) や、魅力的な展示及び動物物の生活環境の充実が必要 (環境エンリッチメントなど)

② 人材育成

- ・動物飼育に関わる専門性の高い業務・知識のノウハウの継承不足
- ・接遇スキルやレクリエーションの運営力不足 (多様なニーズへの対応、サービスの質の向上)
- ③ 持続可能な管理運営体制の構築と新たな財源確保
- ・持続可能な管理運営のための新たな財源の確保、業務の効率化の課題など

4. 再整備の方向性

7

動物公園の特性や課題・ニーズの把握を踏まえ、**3つの視点**をもとに**再整備の方向性**を整理します。

再整備の方向性：老朽化などにより低下した魅力の向上及び社会変容に伴う市民ニーズの変化などに応じた再整備

オープンスペースの利用の多様化、持続可能な管理運営の仕組み、アニマルウェルフェアや環境への配慮などの視点を踏まえた整備を進めます

利用者の利便性やサービス向上のための整備

- ・売店や動物グッズなどの物販機能の検討
- ・動物を身近に感じる体験及び加瀬山の歴史を活かしたプログラムなど特色のある機能や施設の導入検討（サービスや機能向上のため一部有料化の検討）

多様な主体が関わる持続可能な管理運営の仕組みの構築

- ・民間事業者や地域の方との協働の可能性や役割分担などの検討

アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の改善と展示空間の整備

動物種の飼育方針の整理 適切な面積・設備の検討 魅力的な展示

視点①：魅力向上の視点

再整備に向けた検討を進めながら、**魅力向上**などの支障となっている**一部の施設の整備**を行っています。サービス向上のための施設整備は、市民や来園者、地域で活動される方々のニーズを丁寧に把握しながら進めます。

■先行整備の取組

来園者の利便性向上などに資する施設整備として、多目的室や授乳室、多機能トイレなどを備えたパークセンターの新設、東側公園エリアの園路バリアフリー化、動物舎の一部補修とサイン改修などを先行して行いました。



パークセンター
(令和6年度完成)



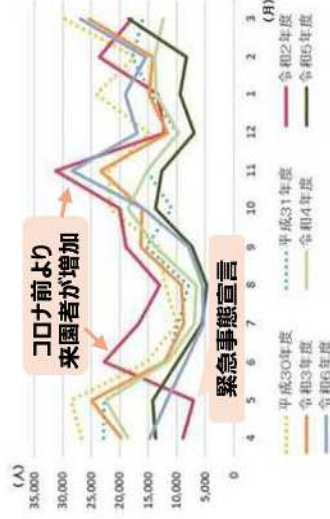
アンケートでも満足度が低かった
トイレの整備 (令和6年度完成)



動物舎の柵や看板の整備
(看板は川崎総合科学高校のデザイン)

視点②：地区公園のオープンスペースの視点

平成30（2018）年度～令和5（2023）年度の来園者数推移



公園の利用効果
休息・休養
子どもの健全な育成
コミュニティ活動など

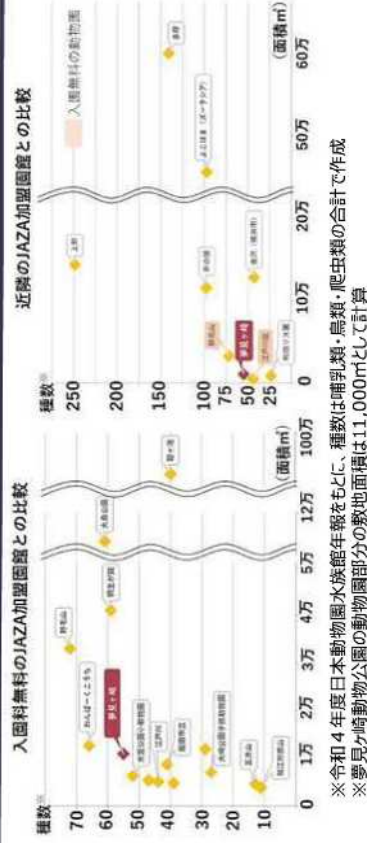
公園の存在効果
精神的健康
地域ブランドへの貢献
生物の生息環境など



芝生広場（夢見）

コロナ禍では、ゆとりあるオープンスペースとして公園の価値が見直され、夢見においても来園者数がコロナ禍以前より増加した時期がありました。子どもの遊び、大人の健康増進やリフレッシュといった、**公園にあるべき機能や効果を備え、来園者が快適に利用できる開かれた空間を保ちます。**

視点③：アニマルウェルフェアの視点

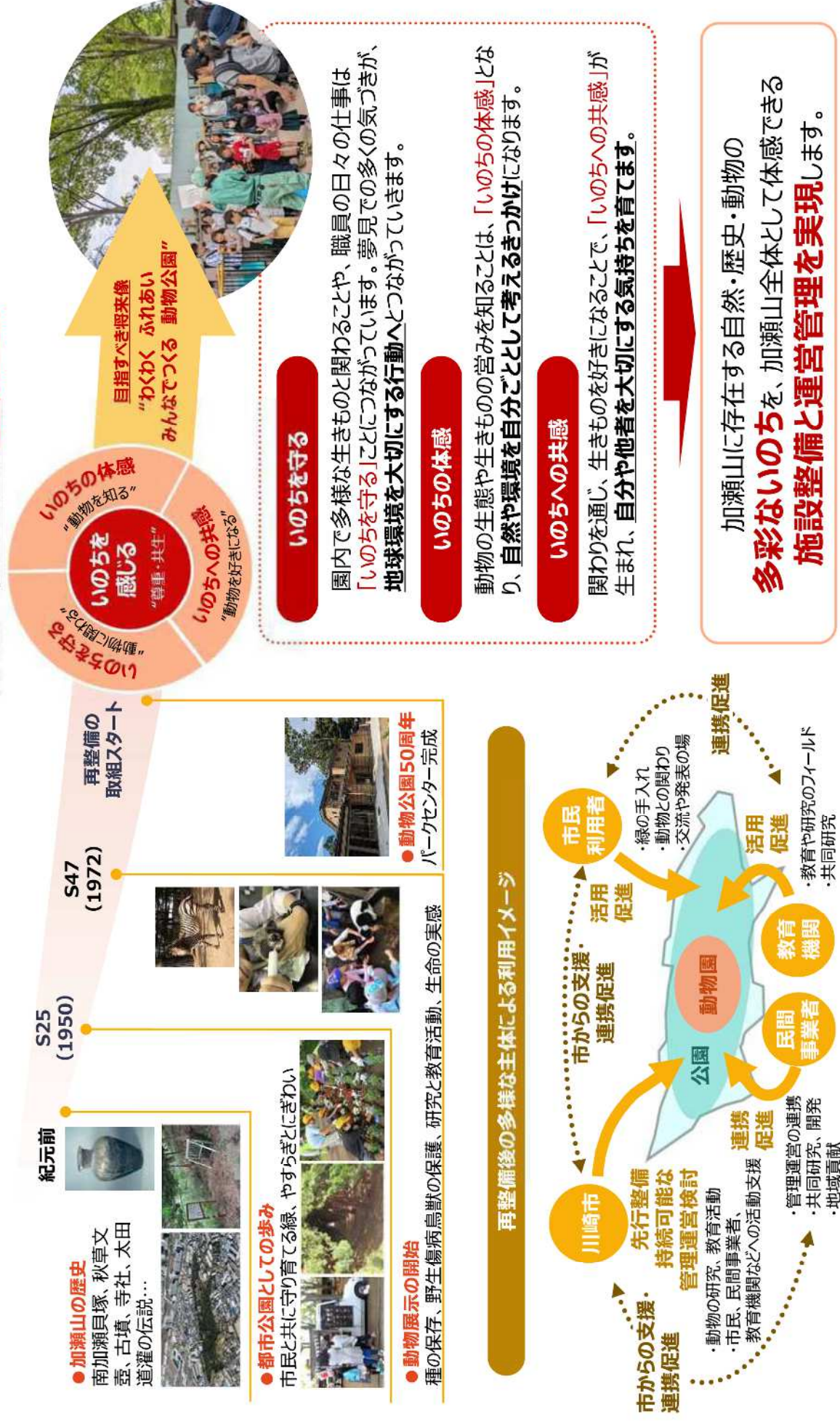


※令和4年度日本動物園水族館年報をもとに、種数は哺乳類・鳥類・爬虫類の合計で作成
※夢見ヶ崎動物公園の動物園部分の敷地面積は11,000㎡として計算

夢見は、入園無料の動物園の中では飼育種数が多く、近隣の動物園と比較すると、**規模は小さいですが飼育種数は少なくない**ことが分かります。**アニマルウェルフェアの視点から、それぞれの動物種の飼育面積や施設、環境などが適切であるか検討**を行います。

5. 目指すべき将来像

夢見ヶ崎動物公園は目指すべき将来像「わくわくふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施します。



6. 再整備の基本的な考え方

9

6-1 再整備の必要性と基本的な考え方

上位関連計画におけるこれまでの方針、新たな課題や今日的役割から導いた再整備の必要性をふまえ、再整備の基本的な考え方を以下に示します。

上位関連計画と これまでの方針	川崎市 総合計画	平成30（2018）年 「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」	再整備テーマ 「いのちを感じる」	JAZA将来構想 2025
	川崎市 緑の基本計画	令和4（2022）年 夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方		その他関連計画など
		令和5（2023）年 夢見ヶ崎動物公園再整備骨子 ～令和6（2024）年 「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」		主な関係法令

再整備により

"都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"としての動物公園を創造します。

- 加瀬山の豊かな自然環境や歴史を活かし、また、野生傷病鳥獣の保護と野生復帰に向けた活動を続けることにより、環境保全と地域社会との共生について人々に伝えます。

再整備の理念

- 動物との関わりから、いのちの尊さや他者への思いやりなどの自分ごと化を促します。
- 野生動物と実際に対峙し、向き合うことにより、地球温暖化や森林破壊などの環境問題への深い関心を育みます。

- 来園する人々の心と体の健康を増進し、いきいきとした他者との交流・自己実現のための活動を促進します。
- 「多様ないのちを感じる」動物公園であり続けます。

都市公園機能

再整備のポイント
都市公園(地区公園)としての機能と魅力の向上

まちづくり機能

持続可能な管理運営を担保し
地域のまちづくりに貢献する、多様な主体との連携体制の構築

動物園機能

動物園機能をより一層活かした
いのちを感じる取組・設備の充実

基本方針①

緑と人が出会う

基本方針

土地の記憶を活かし自然と
人の営みを体感できる

基本方針②

人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、
協調・協働するすべを考えられる

基本方針③

生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの
尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

6. 再整備の基本的な考え方

10

6-2 「いのちを感じる」とは

加瀬山がもつ、ここにしかない「いのちを感じる」資源を、里山樹林・公園・動物園の各エリアごとに整理しました。

基本方針①

緑と人が出会う 里山樹林



基本方針②

人と人が出会う 公園



基本方針③

生きものと人が出会う 動物園



加瀬山の"夢見"ならではの「いのちを感じる」とは？

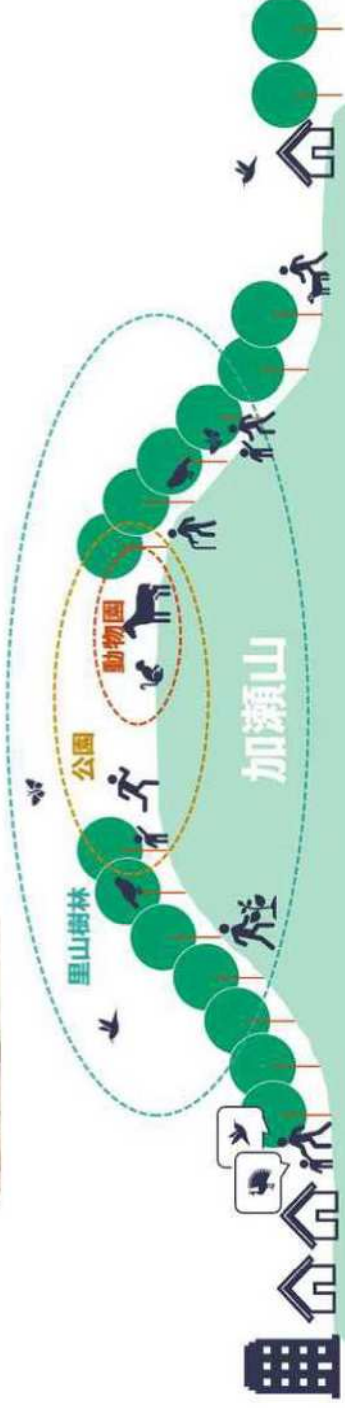
- 樹林に暮らす動物・鳥類・昆虫の生息環境を感じ、知ることができる
- 周囲では見られない鳥類が渡りの途中に羽を休めに立ち寄る特別な場所となっている
- 加瀬山を守ること自然の営みを実感し、身近に生息する生きものとの共存を考える機会となる
- 鳥獣保護区が、暮らしの身近にあるという特別な環境は住民の誇りにつながる

動物園ではない動物公園として「いのちを感じる」とは？

- 公園での世代の異なる人々との関わりが、人のいのちについて気づきの機会を与えてくれる
- 樹木管理や季節の催しなど、地域との関わりが健康づくりや生きがい創出を生み出している
- 古墳・社寺など歴史資源や、年中行事を通じ、伝統や文化など人の営みにふれることができる
- 戦没者を祀る慰霊塔が、学ぶべき歴史と平和の大切さを伝えていく

より身近に動物に関われる夢見の「いのちを感じる」とは？

- 飼育員さんに気軽に話しかけられる、園長さんに気軽に会える恵まれた環境である
- 動物のリハビリを知り、関われる環境が、いのちの大切さを伝える言葉に重みを与える
- 都市の中で、様々な動物と出会う貴重な場である
- 夢見は身近で、いつでも、何度でも訪れて、ゆつくり、じっくりのちと向き合っていくことができる



6. 再整備の基本的な考え方

11

6-3 「いのちを感じる」環境づくり

3つの基本方針に基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境をつくります。

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と
人の営みを体感できる

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ

いのちを感じる取組



協働による樹木管理活動
(里山へGO！HPより)



落ち葉のコンポスト



保育園のお散歩利用



発生材を活用した解説板

里山樹林 整備イメージ

- ・樹林地内に市民協働により管理する際の集合場所を整備し、樹林地管理を支える施設や休憩場所を設置する
- ・日常的な散歩・散策の際に自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出合える安全管理や地域の憩いの空間づくりを行う
- ・活動で発生した自然資源を活用し、樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板を設置する

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、
協調・協働するすべを考えられる

いのちを大切にしている行動につながる

いのちを感じる取組



動物が散歩できる園路



子ども達が集う遊具



支援方法の拡充



パークセンターの地域活用

公園 整備イメージ

- ・来園者や動物が公園内を安全に散歩できる園路や空間を整備する
- ・顔となる遊具などを中心として自然と人が集まってくる柔軟な遊びの空間を整備する
- ・市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備や更新を行う
- ・広場やパークセンターを夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなど柔軟な活用が可能な空間として整備する

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの
尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

いのちの鼓動に心が動く

いのちを感じる取組



いのちを伝えるサインの工夫



飼育員の解説



動物の習性を考慮した動物の展示



いのちを守る取組を身近に感じる施設

動物園 整備イメージ

- ・動物を触るだけではなく、脳と心が喜ぶ「ふれあい」を提供するアニマルウェルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境への理解が進む情報発信を充実する
- ・バックヤードの整備や暑熱対策など、働く環境を充実させ、やりがいをもって働ける環境づくりをおこなう
- ・ゆつくり動物を眺め観察することができる、居心地よく利便性のある空間づくりを行う
- ・調理場やリハビリ施設の一部を見学できる、いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置する

6. 再整備の基本的な考え方

12

6-4 「いのちを感じる」プログラム

民間パートナーのノウハウを活用し、より「いのちを感じる」体験プログラムを拡充し、リピーターの増加や新たな収入源の確保を目指します。

みる かぐ 味

食べることは生きること！ 動物の食べものからうちまで

エサの準備のお手伝い、エサとなる植物を育ててみる体験、同じ食べものを食べてみたり、また食べものによるうんちのちがいを学びます。



エサづくり体験
(市川市動物園)



動物がエサを食べる音
(夢見マールなど)



WWFジャパン自然を、
動物をニオイで学ぶ！くくん
planet in スーシア

※新たに業務の拡充が必要

みる

いのちを守る最前線を見学 保護鳥獣の観察・職員との交流

野生保護鳥獣の観察や、職員の職場見学など、夢見のいのちを守る取組に触れ、自分に何ができるか？考えるきっかけづくりをします。



保護鳥獣の観察
バックヤードツアー
(猛禽類医学研究所 HPD)



動物園まつりでの
バックヤードツアー (夢見)

※新たに業務の拡充が必要

きく かぐ

どの動物の音、においかな？ 目を閉じて楽しむ動物園

音・声・においを手がかりに、動物をあてられるかな？耳を澄まし、しっかりと嗅ぎ分け、動物の生活に思いをはせる体験をします。



WWFジャパン自然を、
動物をニオイで学ぶ！くくん
planet in スーシア

啓発の取組として実施

みる

きく

かぐ

味

ふれる

加瀬山の環境リサーチ 自然を五感で感じる

気温・湿度・騒音・空気の味。都市に比べて自然の中は心地良いのか、五感を使って自然の大切さ、保全活動の重要性を学びます。



公園で集めた音で音楽づくり
(うめきた公園/大阪市)
(PLAT UMEKITA HPより)



樹林ボランティア
(夢見)

※新たに業務の拡充が必要

みる きく

動物の得意！を披露 見て・聴いて驚き、感動する

人と暮らしてきたロバは、人に合わせて歩いてくれる。鳥は当然のように空を飛ぶ。近くで動物の得意！を観察し、動きや習性に驚き、学びます。



ロバの散歩
(京都市動物園)



バードショー
(松江フォーゲルパークHPより)

リハビリや飼育の一環として実施

みる きく ふれる

加瀬山のいのちの歩みとは？ 歴史探訪と生きものの調査

昔はどんな生きものがいた？どんな暮らしをしていた？地域や人の歴史と生きものを一緒に学べる、夢見ならではの体験を目指します。



大正時代の行事をテーマ
としたすごろく体験
(国立歴史民俗博物館HPより) (広島緑化センターHPより)



昆虫教室
(国立歴史民俗博物館HPより) (広島緑化センターHPより)

ボランティアや加瀬山の会、大学連携により実施

7.いのちを感じるゾーニングと主な施設

14

7-2 動線

ジョギングなどの通過、散策と“たまり場”のバランスに配慮した園路とします。また、安全に楽しみながら歩けるよう舗装などの整備を行います。

富士見コース

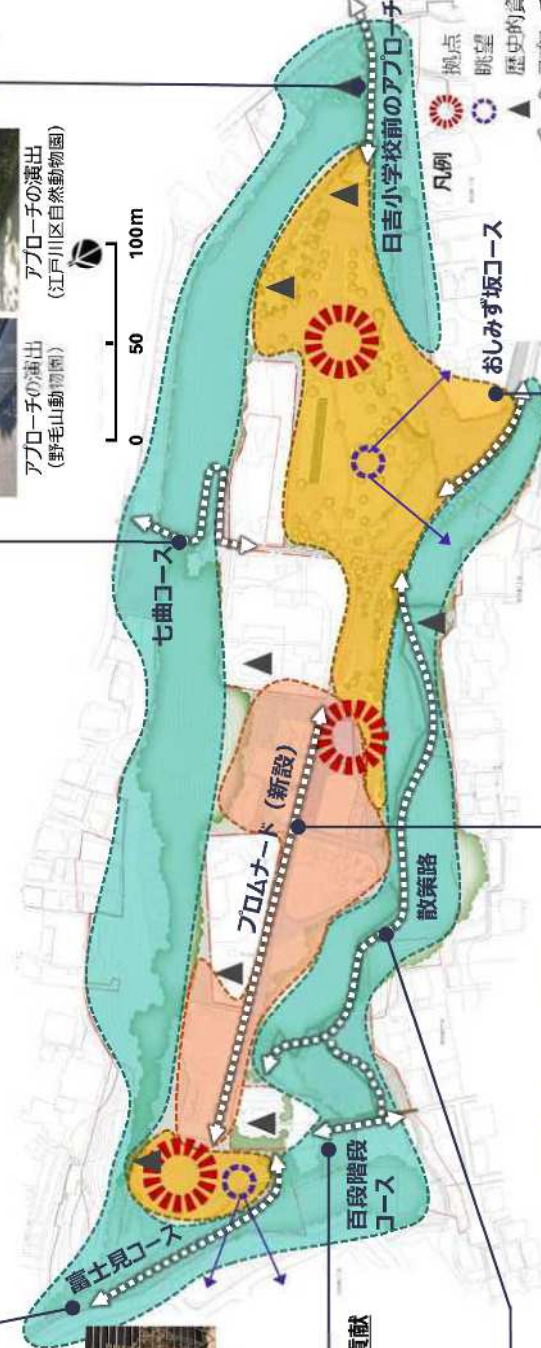
- ・加瀬山の自然と歴史を伝え、動物園エリアへの誘いのサインなどの整備
- ・歩きながらペンギン、シマウマなど動物の歩幅を体感したり、あと何mで公園！など楽しく歩きたくなる仕掛け



動物の足跡の舗装
(天王寺動物園)
サインの工夫

七曲コース

- ・踏面の安全性（勾配の改善、滑りにくさなど）を考慮し利用しやすい階段として改修
- ・展示動物の彫刻や間伐材などの発生材を利用したアート作品を設置するなど動物園公園へ向かうワクワク感を醸成できる空間づくり



百段階段コース

- ・階段の昇り降り、心身の健康に貢献する動線
- ・現状維持とする

散策路

- ・「寄り道」気分の自然散策路
- ・加瀬山の会と協働で安全な散策路を維持
- ・野鳥や昆虫の観察会、鳴き声を聞くなどのプログラムを実施



緑豊かな散策路（夢見）

プロムナード（新設）

- ・高木の列植など動物園エリアだけでなく慰霊塔から西側の展望広場へつながる夢見のシンボルプロムナードとしての整備
- ・動物園エリアの骨格となるメイン動線として幅員4～6mを確保



グランモール公園（横浜市）
（みなとみらい21HPより）

日吉小学校前のアプローチ

- ・周辺樹林地の適正な管理を市民協働で進めていく場
- ・加瀬山の歴史や自然への思いを巡らせる空間づくり
- ・動線沿いに、加瀬山の歴史や夢見でみられる動植物・昆虫などの彫刻などを適宜配置



発生材を利用した解説板
(東山動物園)



山猫の檻を覗く山猫の彫刻
(東山動物園)



エントランスの演出
(京都市動物園)

防災・非常時
災害時などにおける緊急車両などの進入路の確保や避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

7.いのちを感じるゾーニングと主な施設

15

7-3 植栽の考え方

公園全体の考え方

- 既存の高木の緑陰を活かしながら、安全性を考慮した見通しの確保、景観の充実による魅力向上などのため、高木の剪定などを行います。
- ただし根上がりが著しく、利用にあたって危険や支障が伴う樹木や、再整備に向けて施設などの支障となる樹木は、公園利用にあたって適切な位置に更新します。
- 管理や整備による発生材は、コンポストや工作の素材として再利用の検討をします。

西側展望広場エリア

- 剪定により眺望、富士山への見晴らしを活かす
- 根上がりがなどで利用に危険が伴う樹木は更新
- 新植する樹木は季節の移り変わりを感じられる樹種とし、印象深い空間づくりをする
- 低木は伐採とする

樹林地の考え方

- 倒木等により来園者や住宅、広場、園路等へ被害が及ぶ恐れのある支障木を、優先的に伐採する。
- 加瀬山特有の風景の維持や生物多様性の確保に向け、立地条件や植生などの条件を整理し、樹木等の整理・更新を行う。
- 樹林地を活用した協働プログラム等を検討し、維持管理への関心や参加を促す。

樹木を更新するエリアの考え方



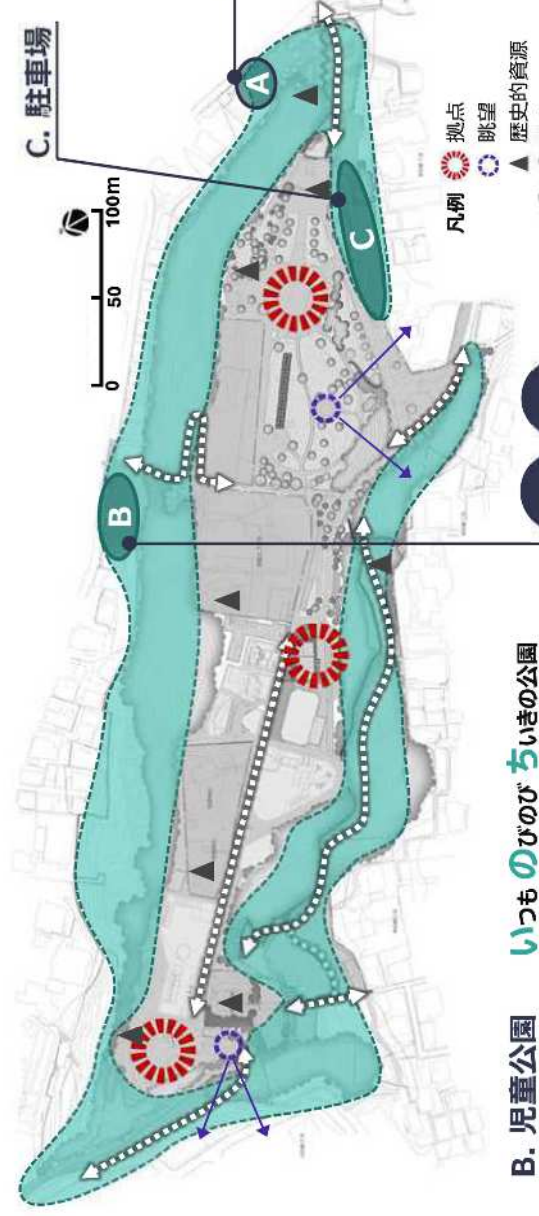
日吉小学校前のアプローチ周辺
 既存樹木の剪定・伐採、下草刈りなどを行う。市民と協働で樹林管理が行える範囲や樹種、スケジュールなどを検討する。
広場、散策路など
 適切な樹林の明るさ確保や緑陰効果の向上、見通しの確保などのため剪定をする。
おしみず坂などアプローチ
 樹木の剪定、間伐などを行い、見通しをすっきりさせる（明るいイメージにする）。
プロムナード（新設）
 高木の列植などで全体の骨格となる印象づけをする。

- 利用者への**安全性確保**（根上りや落枝、倒木の危険性や見通しの確保など）を考慮する
- 電気や給排水設備、トイレや動物舎などの**基幹設備の更新**に向けて、**支障となる樹木は更新する**

撤去する樹木：33本
 更新する樹木：33本以上

※今後の詳細な検討により変更となる可能性があります。

8-1 緑と人の出会いゾーン



B. 児童公園 いっものびのび ちいきの公園

- ・川崎市福祉のまちづくり条例に適合した入口の改修
- ・周辺公園を加味し、特徴ある公園づくり
- ・敷地面積（約700㎡）を考慮した公園づくり（小学校低学年以下など、対象年齢を絞る）
- ・遊具やベンチなどの施設は、夢見でみられる生きものや出土品を連想できるデザインとし、動物公園全体や地域の歴史への理解や愛着の醸成へつなげる

動物モチーフの施設
(豊中市原田公園)動物モチーフの施設
(メーカードログより)動物モチーフの遊具
(メーカードログより)歴史モチーフの遊具
(熊本県立美術館HPより)植物モチーフの遊具
(メーカードログより)地形を活かした施設
(メーカードログより)広場イメージ
(読谷村古聖第二公園/読谷村HPより)

・現状面積を維持

- ・民間パートナーとの協働により、駐車場区画の見直しを実施
- ・事前予約のシステムや、カメラによる入出庫管理などを検討
- ・近隣駐車場等との連携を図り、来園者の利便性を向上

A. 「いのち」を「みつけ」「まもり」「育てる」拠点

- ・日常利用として散歩・散策の際の休憩など、地域の憩いの場として静的な空間づくり
- ・周辺樹林地を市民協働により管理する際の集合場所として整備し、樹林管理のプログラムを考え、実施するための「拠点」とする
- ・里山の手入れを通して、自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものとの出会いから気づきを得る場
- ・手入れへの参加により、近隣の方々とのお話やふれあいが生まれ、地域のつながりを深めるきっかけの場
- ・10人程度が活動できる四阿・テール・ベンチに加え、手洗い施設や必要に応じて倉庫、資材置き場、落ち葉のコンポストなどを設置

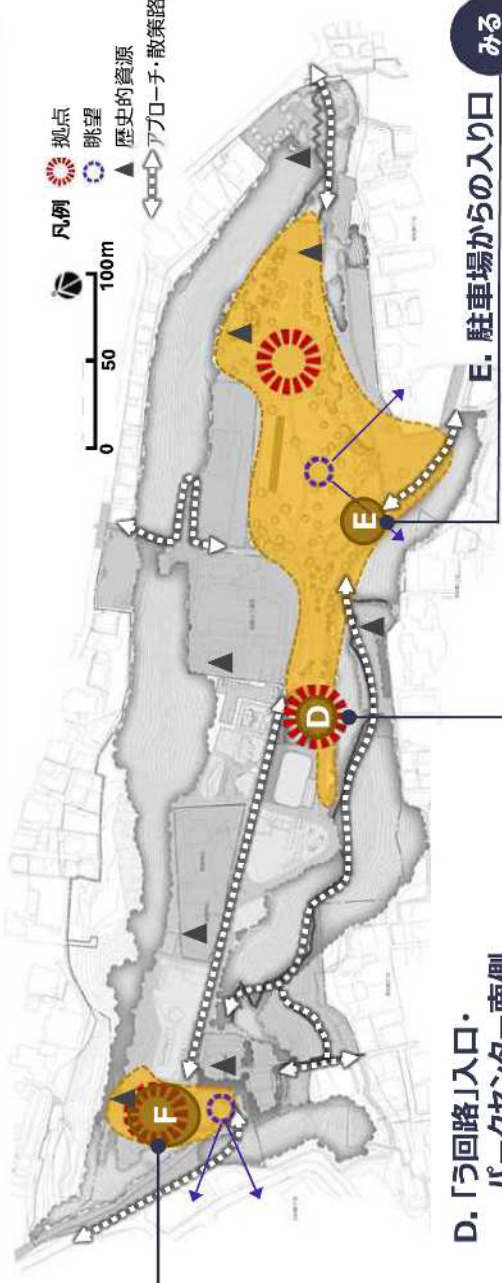
発生材を利用した解説板
(東山動植物園)協働による樹林管理活動の例
(多摩東寺方緑地保全地域/里山へGO！HPより)落ち葉のコンポスト
(GOOD NEWS NEIGHBORS)里山体験教室
(さいたま緑の森博物館/里山へGO！HPより)

8-2 人と人の出会いゾーン (D,E,F)

F. 展望広場

みる かぐ ふれる

- 市街地への眺望、富士山への見晴らしや既存のサクラを活かしたのびのびとした広場空間として整備
- 展望デッキ、日除けなど休憩施設を更新し、ベンチやテーブルを新設
- 複合遊具は撤去、芝生エリアに新設し、広場主体の空間づくり
- 施設デザインは、動物園エリアの動物を連想させるデザインとする
- 公園へのアプローチ動線と動物園エリアの骨格となるシンボル動線の「結節点」として印象的な、花見ができるなど季節感のある樹木を主体とした空間
- 「結節点」にシンボル機能を持った施設を設置（シンボル性の高いデザインのトイレや時計塔、ゲートなど）



D. 「う回路」入口・パークセンター南側

かぐ ふれる

- 花木・草花や舗装パターンなどで演出し、パークセンターとの一体感を演出
- 公園利用者にとって休憩や小規模なイベント利用でもできる広場空間
- 動物病院整備の際の「仮設病院機能」を活用し管理活動の暑熱対策として休憩小屋などの設置を検討



※小規模なイベント：
間伐材を利用した小物や動物
用遊具製作などの工作イベント
やアート展示イベントなど

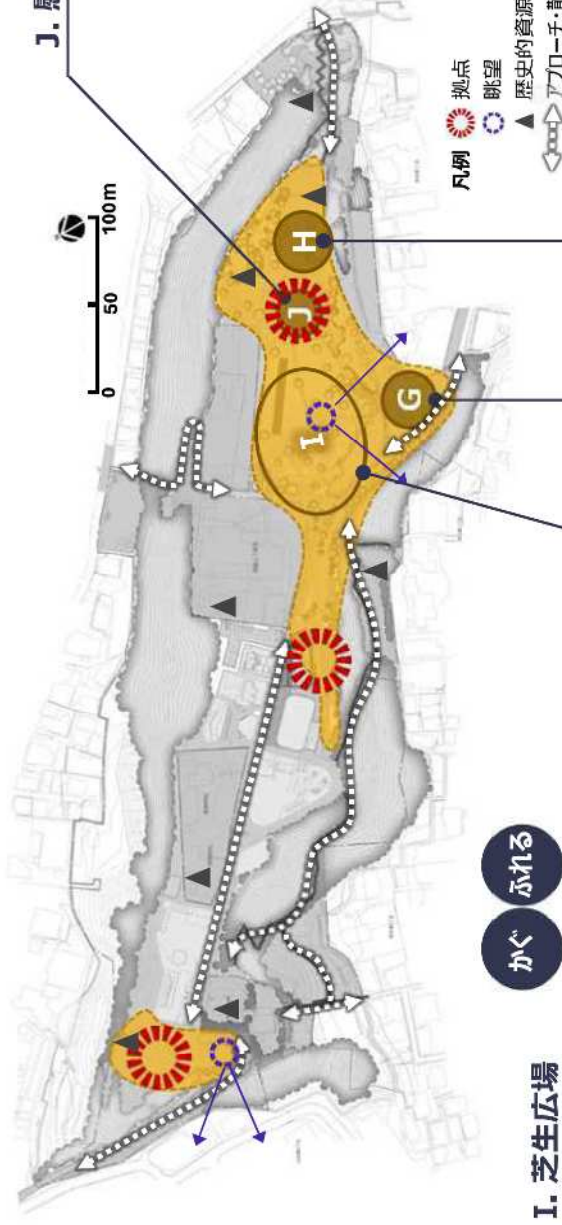
E. 駐車場からの入り口

みる

- 自動車利用者のメインエンタランスとしてのゲート機能
- ゲートやシンボルリーや草花で出迎える空間を演出
- 旧売店エリアは、情報発信エリアとして改修し、公園全体マップに加え、展示動物や加瀬山の歴史、「夢見ヶ崎」の名称の由来などを紹介する
- 飼育動物やイベントの最新情報を伝えるデジタルサイネージを設置を検討



8-2 人と人の出会いゾーン (G,H,I,J)



I. 芝生広場

- ・ラジオ体操、犬の散歩、ボール遊び、お花見、地域の行事など**柔軟な活用ができる広場**
- ・展望台は撤去、緑（カイヅカイブキ）のトンネルは維持
- ・動物や加瀬山にちなんだ**テーマ性のある複合遊具**などを中心とした遊びの空間を整備
- ・遊びの空間は、**児童（6歳～12歳）と未就学児（6歳未満）ですみわけができる空間づくり**を行う
- ・芝生広場の休憩施設は**テーマ性のあるデザインのベンチ・スツールなどを検討**（動物や昆虫の姿・形を模した形状など）



遊具のイメージ



遊具配置のイメージ

かぐ ぶれる

J. 慰霊塔前広場

みる 味わう

- ・遮熱透水性インターlockingブロック舗装などによる円形広場に改修し、**象徴的なデザイン**※となるような工夫を行う
- ・舗装構成は、**キッチンカーなど車両乗り入れが可能な舗装構成**※例：古墳群から出土した銅鏡模様を舗装パターンとするなど
- ・広場内は、**イベント等が可能なオープンスペースを確保しつつ、適宜樹木とベンチを配置し、休息できる設えとし、広場全体が慰霊塔に向かう静的空間となるような整備**
- ※広い舗装面となるため、樹木を舗装内にも配置し木陰を作る。

古墳群から出土した
三角縁神獣鏡（川崎市）

広場のイメージ（大塚駅前広場）

H. 慰霊塔付近

ふれる きく

- ・戦没者慰霊のための広場空間として現状を維持
- ・舗装などの老朽化に対応し、**舗装の更新や樹木の剪定、不要施設の撤去などを行い、慰霊のための空間としてふさわしい格調高い空間づくり**

凡例 拠点 眺望 ▲ 歴史的資源
アプローチ・散策路古墳群から出土した
三角縁神獣鏡（川崎市）

広場のイメージ（大塚駅前広場）

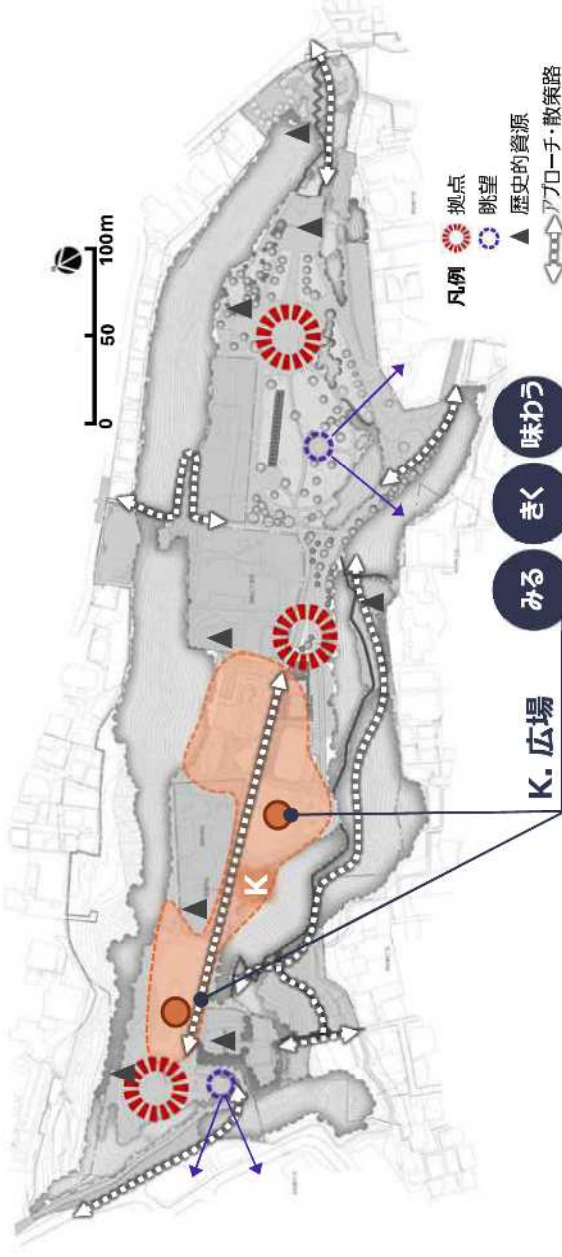


格調高い舗装のイメージ 休憩スペース（神戸市東遊園地）

G. イントランスのロータリー

- ・現状維持
- ・タクシーの巡回や、駐車場が満車であった場合の**巡回スペースを維持**
- ・民間パートナーとの協議によりロータリー空間の見直し（**駐車場の満車・空車のわかる看板などの設置も含む**）

8-3 生きものと人の出会いゾーン



- 動物園エリア内に遠足などの利用時の説明、お弁当、休憩などのためのスペースを整備
- 子ども（小中高生）や若者（高校生や大学生など）の居場所として、動物たちを見ながらゆったりと時を過ごせる場所
- 屋根のある休憩施設を設置し、雨天時でも休憩でき、屋食などが食べられるようにする
- 動物の形状を模したベンチやスツールなどを設置、動物園エリアの各ゾーンの特徴を表した設え
- 手洗い場を設置し、利用者の衛生面にも配慮した空間づくり



動物のシルエットが浮かぶベンチ（メーカー・カタログより）



動物モチーフのベンチ（ズーシア）



動物展示・動物病院など

ふれる みる かぐ きく

- 老朽化やアニマルウェルフェアに対応するための動物舎整備
- 動物の本来の行動を引き出す環境エンリッチメントの充実、子どもの目線やバリアフリーに配慮した展示など観覧環境の充実
- 来園者と職員の安全確保を考慮した、園路など動線、施設



手のひらサイズのリスの彫刻
(東山動物園)



動物病院イメージ
(ドバイファルコンホスピタル)



シカの獣害とライオンへの給餌に関する
掲示物 (のんぼいパーク)



観覧しやすい園路
(天王寺動物園)

8-3 生きものと人の出会いゾーン

飼育動物の考え方

動物を飼育・保護するという役割を担う動物公園が、次の100年も継続していくためには、一般的な公園とは異なる視点から施設・環境の整備を進めていく必要があります。具体的には、**飼育動物の種の保存や寿命などを考慮した繁殖・調整・導入の計画的な実施に加え、アニマルウェルフェア（栄養、環境、行動、健康、精神）および環境エンリッチメントの観点から、動物の生態や習性に配慮した施設整備が重要**です。

また、来園者が動物を「知り、関わり、好きになる」体験を通して、**子どもの健全やかな成長や、来園者の心身のリフレッシュにつながる取組を充実させるための施設・環境整備も合わせて進めていきます。**

計画の視点

- ▶ 種の保存への貢献の視点
- ▶ 環境教育、情操教育などの教育的視点
- ▶ 飼育継続性の視点
- ▶ 動物公園での実績の視点
- ▶ 動物を介在した取組への発展

今後飼育していく種の計画作成

支える

今後飼育していく種のニーズを満たすことのできる施設整備

■コレクションプランと施設整備の考え方の例

- 動物を好きになってもらうプログラムが実施できる動物種・施設整備の検討
- いのちを守る取組を伝え、市民の参加を促進する施設整備（動物保護施設の充実など）



エサづくり体験
(市川市動植物園)



バックヤードツアーなど
の充実に向けた整備
(夢見)



保護活動（夢見）ガラス張りの施設（海外事例）
保護鳥獣のリハビリや保護活動を
知ってもらう施設



コレクションプランの考え方

飼育している一部の動物種において高齢化や近親交配が進み、今後の繁殖が困難と考えられる動物種も存在します。**持続可能かつアニマルウェルフェアに配慮した飼育体制を確保し、今後も動物園としての役割を果たすために、飼育動物種の継続計画「コレクションプラン」の考え方を整理します。**

コレクションプランは、教育的価値など動物公園の将来像を踏まえた視点、動物の特性や他の動物園の動向などを踏まえた**専門的な視点**、人気の動物種など**客観的な視点**から総合的に判断します。また、**飼育動物種数・個体数**の動態を踏まえ、必要に応じて適宜見直します。



※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子に一部加筆

- SNSを活用したプロモーションによる愛着や物語性が来園の動機づけとなるような動物種と効果的な見せ方のための施設整備や展示の工夫



LIVE配信の取組
(鳥羽水族館)



SNS映える工夫
(ユニークなフォトスポット/東山動植物園)



Xでの広報活動
(夢見)

8-3 生きものと人の出会いゾーン

展示施設の整備方針

動物舎

動物の飼育環境の改善、展示機能の充実、来園者と職員の安全確保などを考慮し、より一層動物園としての役割を果たすための施設整備を行います。

- ・アニマルウェルフェアや環境インリッチメントを考慮した施設や、職員・動物の安全を考慮した施設
- ・動物の逸走防止を考慮した構造（二重扉など）
- ・来園者が安心して観覧できる動線整備や広場などの設置
- ・夏の暑熱対策を考慮した飼育環境、観覧環境
- ・子どもの目線や車いすなどバリアフリーに配慮した、誰もが見やすい展示施設
- ・（今後の課題として）動物の間接飼育を可能とする設備構造

■配慮事項について

- ・JAZAの適正施設ガイドライン等がとりまとめられている動物種については、これを参考にしながら飼育環境、飼育面積などを設定し整備します。
- ・コレクションプランに基づき、園内での繁殖を目指す動物種はそのための繁殖に必要な面積、部屋数などを確保します。また、感染症や、傷病動物・高齢動物などの隔離スペースの充実も併せて検討します。
- ・工事に伴う騒音や移動が飼育動物に極力影響を及ぼさないような整備方法及び種や個体の状況に応じた施設配置を検討します。
- ・動物の移動には細心の注意を払い、生態や習性に配慮した移動方法や移動距離を考慮した施設配置計画を立てます。

■JAZA適正施設ガイドラインの一例

動物種	JAZAガイドライン記載の基準	
	飼育面積の基準など	その他
レッサーパンダ (1頭ないし2頭放飼の場合)	屋内：最低22㎡ (40㎡程度が望ましい) 屋外：最低22㎡ (40㎡程度が望ましい)	屋内：高さ3m程度 樹木、休憩台など 屋外：樹木や遊び木など
フンボルトペンギン	屋外：6羽までは1羽あたり1.2㎡ プール：6羽までは1羽あたり1.0㎡、水深 0.5m	擬岩や木製の巣箱など

バックヤード・病院・保護施設

動物の安全はもとより、職員の働きやすさや安全を考慮した整備を行います。

- ・安全で効率的な管理動線の整備
- ・傷病動物や感染症への対応を適切に行うための動物隔離施設や保護施設の充実
- ・野生傷病鳥獣の受け入れや野生動物リハビリテーターの活動が充実し、来園者が一部観察可能なバックヤード整備
- ・大学など学術機関との連携をより一層深化するためのバックヤード整備



動物病院イメージ
(トバイアコホルストダール)

防犯・防災・感染症対策などの危機管理に関する施設

展示動物の防犯対策、動物の健康危機管理、地震など自然災害に対する防災対策のために必要な施設（ハード）を整備します。

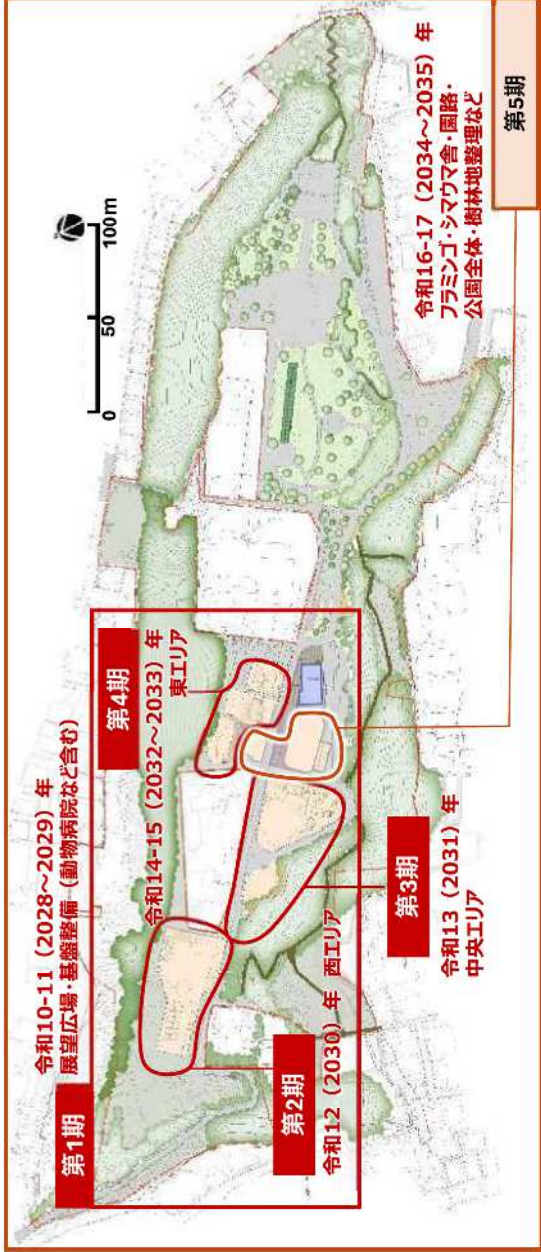
また、それらの運用（ソフト）についても検討します。

項目	ハード	ソフト
防犯対策	・防犯カメラの設置 ・ゲートの新設 ・配置により死角を作らないような工夫など	・対策の強化 ・市民や民間事業者との連携など
動物の健康・危機管理	・鳥インフルエンザなど感染症対策を考慮した施設 ・隔離施設の充実 ・配置による工夫など	・マニュアルの整備など
防災対策	・インフラのバックアップ（水・電気・太陽光発電や蓄電）、ガスなどは14日間の予備を設ける） ・飼料や備品の備蓄が可能な施設整備 ・耐震設計とし、災害時に来園者・職員・動物の受傷、動物の逸走を防止する構造	・公園部分含む避難訓練の実施、地域との連携強化 ・マニュアルの整備 ・飼料や備品の備蓄量の検討など

9.概算事業費と段階整備概要

再整備における公園全体の概算事業費

計画期間の概算事業費は、概ね次のとおりです。※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります。



■全体概算事業費

項目	適用	金額 (億円)
獣舎	レッサーパンダ舎・ペンギン舎・サル舎・インコ舎・小動物舎等	28.2
バックヤード	動物病院・動物隔離施設・調理室等	6.9
広場と遊具	遊具・休憩施設・芝生・小公園整備等	3.0
利便施設	西側広場のトイレ	0.5
全体	園路・給排水や電気などのインフラ・埋蔵文化財調査・撤去費等	14.6
総 額 (消費税込み)		53.2 億円

■段階整備概要・段階整備費

設計期間	整備年度	主要施設	金額 (億円)
令和8 (2026) 令和9 (2027)		基本設計・詳細設計	0.8
第 1 期	令和10 (2028)	(展望広場・基礎整備) 展望広場整備 (デッキ・休憩施設・外周柵・トイレ等)、インフラ本管整備、仮設病院、バンシエ・マーモ舎撤去、舗装復旧等	4.0
	令和11 (2029)	(基礎整備) 既存バックヤード施設撤去、キュービクル、受水槽、動物病院、動物保護施設、隔離施設、調理室等新設	7.0
第 2 期	令和12 (2030)	(西エリア) キジ舎、ラム舎、ヤギ舎、ロバ舎、小獣舎、詰所、猛禽類・クジャク舎、インコ舎、周辺外構一式	7.2
第 3 期	令和13 (2031)	(中央エリア)サル舎、レムール舎、バンシエ・マーモ舎、カメ舎、小動物舎、シカ舎、周辺外構一式	8.4
第 4 期	令和14 (2032)	(東エリア)マーモール舎、レッサーパンダ舎、ペンギン舎ポンプ室、ろ過器	5.7
	令和15 (2033)	(東エリア)ペンギン舎	9.2
	令和16 (2034)	(その他) フラミンゴ及び周辺外構一式、シマウマ舎、動物園エリア主園路、動物園エリア照明灯一式	5.2
第 5 期	令和17 (2035)	(公園エリア) 幼児用大型遊具・児童用大型遊具、舗装広場改修、慰霊塔周辺舗装改修など、休憩施設・サービス施設等一式、北公園改修、東小広場改修、アプローチ・散策路改修、樹林地整理、サインなど	5.6

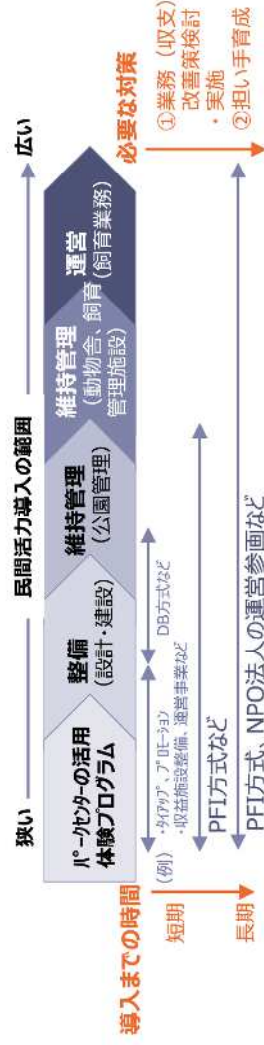
随時調整
駐車場 (民間パートナーとの協議、調整により整備検討、設計など)

基本的な考え方

川崎市では、「民間活用(川崎版PPP)推進方針(令和7(2025)年)」および「パークマネジメント推進方針(令和3(2021)年)」に基づき、官民連携による適切な事業手法を検討し、適用する業務の性質や安全性、費用対効果などを十分に考慮した上で、民間活力の効果的な導入を検討しています。

■民間事業者との連携の可能性

令和4年度及び令和6（2024）年度に行ったPPPプラットフォームの意見交換会では、施設整備に関しては「参入に効果的なスペースや動線を確保してほしい」、管理運営に関しては「自然や生き物を活かした教育プログラムの展開は可能」などの意見を頂いておりますが、公園施設整備における民間活用事業への意欲のある事業者は確認できませんでした。



■施設整備が必要な範囲と規模

本事業は動物公園全体が対象である（約6.6ha（麓の公園や樹林地等含む））。

- ①電気・水道等のインフラ設備
- ②更新時期を迎える公園施設・動物舎・バックヤード施設
- ③アニマルウェルフェアへの対応が不十分な動物関連施設
- ④運営・利用にあたり支障や危険を伴う樹木の更新
- ⑤市民・民間との協働を可能とする拠点・休憩所等の新設
- ⑥安心・安全で快適な運営・利用のための施設整備（休憩施設の増設・動物のセカンディヤッチ（逸走防止措置など）、暑熱環境への対応・非常時のバックアップ等）
- ⑦防災、感染症などの危機管理対策の整備

再整備の事業手法の検討結果

本事業は、段階的な整備をおこなうため、一括発注の効果が限定的で、動物舎や病院施設などは特殊な施設の為、民間ノウハウの活用やコスト縮減が期待できず、工事期間短縮などがそれほど期待できないことがわかりました。

また、飼育動物に配慮した整備が求められることなどから、一体的・包括的な整備や維持管理が困難です。一方、従来手法で実施した場合は、動物園業務を円滑に、的確に対応可能とする施設の設計ができ、地域経済の活性化の観点から市内事業者の参画が見込まれます。以上より、今後の夢見の整備は従来方式により実施することとしますが、再整備の進捗に伴い、事業者の参入意欲の確認などを実施します。

■整備手法の検討に係る簡易な検討結果

整備手法		民間活用手法			
評価項目	従来方式	DB方式	DBO方式	PFI方式	
手続概要	市が設計と工事を発注(仕様発注)する設計と施工を分離	設計施工を一括発注 設計段階から施工までの 一括発注	設計・建設・運営まで実施	PFI方式	
施設用途への対応	仕様発注の為、発注者の細かい意図を反映させやすい	△	△	△	
スケジュール	飼育動物を移動させながら毎年順次、施設ごとに改修整備を行う為、同等となる	○	○	○	
参画可能性	- 通称の工事発注の為、地元企業からの参画が求められる	x	x	x	
地域経済の活性化	○ 地元企業が参画しやすい	△	△	△	
事務負担	x 従来方式は、個別に発注、監督と事務負担大	△	○	○	
コスト	-	○	○	△	
評価	○	△ or x	△ or x	△ or x	

定性評価	整備手法	民間活用手法		
	DB方式	DBO方式	PFI方式	
整備手法	設計段階から施工までの一括発注	設計・建設・運営まで実施	PFI方式	
	仕様発注の為、発注者の細かい意図を反映させやすい	△	△	
	飼育動物を移動させながら毎年順次、施設ごとに改修整備を行う為、同等となる	○	○	
	- 通称の工事発注の為、地元企業からの参画が求められる	x	x	
	○ 地元企業が参画しやすい	△	△	
地域経済の活性化	○	△	△	
	動物園の設計は難易度が高く巨額工事には地元企業の参画を要件化(又は加算評価)による対応が可能	△	○	○
事務負担	x 従来方式は、個別に発注、監督と事務負担大	△	○	○
	整備と運営が別発注なのでPFI等に比べて事務負担大	○	○	△
コスト	-	○	○	△
	民間活用手法のコスト削減効果は確認できず	民間活用手法のコスト削減効果は確認できず	民間活用手法のコスト削減効果は確認できず	民間活用手法のコスト削減効果は確認できず
評価	○	△ or x	△ or x	△ or x
	整備手法	民間活用手法	民間活用手法	民間活用手法

11. 運営手法

25

持続的な運営手法の検討結果

夢見全体を一括した魅力発信を目指し、民間ヒアリングを行った結果、**立地条件・採算性・事業規模などの面から民間事業者の参画意欲が低く、現状では全体委託や指定管理等は困難であることから、運営業務を分野に分けて個別のヒアリングや検討を行い、運営手法の考え方を整理しました。**

■ PPPプラットフォーム意見交換会（令和4（2022）年度、令和6（2024）年度に実施）

人員確保と技術の問題

- ・動物の飼養管理には専門性が求められ、人材確保・育成コストが高い
- ・特に希少種の取扱いには高度な知識・経験が必要

財政面の懸念

- ・現状予算では人件費・光熱費・修繕費などをカバーできず、持続的運営が困難

動物とのふれあいプログラムの課題

- ・アニマルウェルフェアへのエビデンスの提示が必要
- ・「ふれあい」には、配慮と説明責任が求められる
- ・いきなり指定管理者制度に移行すると事故・クレーム・混乱の恐れがある
- ・「段階的な参入」が安全かつ望ましい

⇒「指定管理者制度での業務への即時参入は、運営の効率性や来園者への影響、動物飼育及び健康管理面など、多方面でリスクがある

■ 管理運営手法（飼育業務）

JAZA加盟園として単なるレクリエーション施設ではないアニマルウェルフェア・教育・研究に高い責任を負う夢見においては、**市が主導し、全体方針をコントロールすることが重要**です。これを前提に、民間パートナーとの飼育業務の連携手法を「直営」「委託」「指定管理者制度」で比較検討し、**定性評価、定量評価の結果、飼育業務は行政が主導的に実施すること**とします。

■ 管理運営手法（アクセス、駐車場）

夢見は高台に位置していることから、**徒歩での来園には一定の負担が伴うほか駐車場の狭さや、バス停からの距離など、アクセス面での課題**があります。これらの課題に対応するため、**園路のバリアフリー化を進め、駐輪場の拡充、周辺施設との連携による駐車場台数の確保**を検討します。また、公園までのルート案内を充実させるなど**アクセス環境の向上に継続的に取り組み**ます。



夢見 駐車場

■ 管理運営手法（プログラムの実施、広報、啓発業務及び施設維持管理）

多くの夢見の利用者に求められている、加瀬山を活用した体験プログラムや魅力がより伝わる新たな取組、包括的な歳入確保につながる企画、ネイチャーポイントに資する活動の推進など、豊富なノウハウやアイデアを有する民間パートナーとの連携により、更に拡充します。



プログラムのイメージ
野生の動物のすみか探し
(東京都建設局HPより)

■ 包括的な歳入確保に向けた検討

- 「クラウドファンディング」「寄附の拡充」「ネーミングライツ」などの付加的な官民連携の手法について、効果的に実施します。
- 公園管理の協働として、飼料などの調達連携、広報活動、パークセンター内での販売などの協働の可能性を引き続き検討します。
- 飼育業務関連のDX化など新技術の活用について、適宜検討し、アニマルウェルフェアの向上や、より効率的な管理運営を目指します。
- 有料体験プログラムの導入や駐車場の有料化等について、動物飼育などに還元できる、持続可能な経営の視点を踏まえた仕組みを検討します。



看板広告サポーター
(京都市動物園)



グッズの例
(足立区生物園HPより)

■ 民間事業者との連携範囲

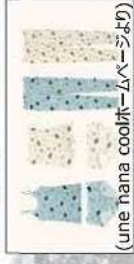
夢見の民間事業者との連携は、以下に図示した範囲を中心とするため、**再整備の進捗に伴い、事業者の参入意欲の確認などを実施**します。



地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します。

再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、企業・大学等と共に新しい夢見を育てていきます。また、環境や社会貢献のメッセージを発信する場として機能し、都市が自然と共生する姿勢を示す場として地域や来園者に新しい価値を提供します。



13. 事業スケジュール

27

再整備計画を令和8（2026）年度5月に策定し、整備に向けた基本設計などを進め、令和10（2028）年度から飼育動物を移動させながら、段階的に、改修整備を進めます。民間パートナーとの協働は、令和9（2027）年度からの実施を予定し、駐車場は近接する日吉合同庁舎駐車場・臨時駐車場と連携した、効率的・効果的な資産の有効活用を行います。

なお、動物の飼育状況によっては施設配置の計画を適宜見直すものとし、スケジュールについても今後、詳細設計や施工計画などにより変更が生じる場合があります。

■ 事業スケジュール

項目	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)	令和13 (2031)	令和14 (2032)	令和15 (2033)	令和16 (2034)	令和17 (2035)
計画策定 ／協働・連携	再整備計画策定 市民意見の募集 再整備計画骨子 民間パートナーとの協働 導入準備 駐車場や体験プログラムなど 民間パートナーとの協働 生物多様性を発信する場としての展開 導入準備 生物多様性に関する取組 （自然資源の現況調査、企業・市民が参加できる仕組みを整備・発信、企業や大学と連携した研究・教育の場、モニタリングの実施等）											
施設整備	パークセンター、園路等 先行整備		基本設計	詳細設計	第1期工事	詳細設計	第2期工事	第3期工事	第4期工事	第4期工事	第5期工事	
					埋蔵文化財調査		埋蔵文化財調査	埋蔵文化財調査	埋蔵文化財調査	埋蔵文化財調査	埋蔵文化財調査	埋蔵文化財調査
関連スケジュール	秋	春										
動物種数 （自然減想定）	51種	（R7.10月時点）	※R8 3月時点にて最終更新									
												約46種